

## 1 “自” (みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

豊かな社会の礎を築いていくためには、まず私たち自身や企業、さらには地域が、今ここにあるもの、今起きていることをしっかり見つめ直し、それぞれの持つ個性や能力を最大限に発揮できるよう、自分自身の新しい設計図を描き、将来に向けて計画的に自らをみがき、各々自立して行動していかなければならない。

同時に、様々な価値観や生活像の中から、各人がそれぞれの個性や能力と責任に応じて自由に生き方を選択し、心の豊かさや、人や自然とのふれあいなど、暮らしの中でキラリと光る新たな喜びや生きがいにも目を向けて、人間的な豊かさをみがいていくことが必要である。

また、「地域が選択される時代」には、地域そのものが、内外の人々をひきつける独自性の魅力や個性をみがき、それぞれの資源や能力をレベルアップしていくことが重要となる。

“とちぎ”を構成するすべての担い手が、自らの持てる資質と能力を一層みがき、熟成していく中から、自立した豊かな“とちぎ”を創り出していく。



## 2 “絆” (きずな)をつなぐ

～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

すべての人々が豊かさや幸福を共有できる社会を築いていくためには、社会を構成するすべての担い手が、豊かな心と公共心を持って、他者のため、社会のため、将来の世代のために、自分にできることを自ら考え、行動していかなければならない。

そして、それぞれが協力・補完し合いながら、人と人、人と社会、人と自然との間に相互の信頼や共生、共助のネットワークを積み重ね、弱きを助け挑戦者に勇気を与えていくことが必要である。

近年、人々の心のあり方や社会のありようが揺らいできており、こうした状況を立て直すには、ともすれば自己中心的になりがちな「わたし」のありようを乗り越え、地域「みんな」の温かなコミュニケーションを通して、互いの思いやりや助け合いの心が息づく家族やコミュニティを取り戻していくことが大切である。

また、身近な「安心」や「信頼」の絆をつなぎ合わせていく中から、地域社会を支え、はぐくむセーフティネットとしての社会システムを確立することが可能になる。さらにこうした取組は、“とちぎ”にとどまらず、全国、そして地球規模での取組へと発展していくものである。

こうした安心と信頼の絆による「ヒューマンセーフティネット」の輪を広げ、みんなが共に生きることの喜びを分かち合える、おおらかな“とちぎ”を創り出していく。



### 3 “風” (かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

グローバル化が進む「知恵の時代」にあって、豊かさを創造し、持続していける社会をつくるためには、自立した「個」と「ヒューマンセーフティネット」の基盤の上に、常に新たな革新と創造の風を巻きおこしていかなければならない。

そして、様々な人がそれぞれの夢に勇気を持って挑戦し、この“とちぎ”から、全国に、そして世界に貢献していかなければならない。

そのためには、多様な個性を互いに認め合いながら、挑戦しようとする人にはだれにでもチャンスがあり、たとえ失敗しても絶望することなくやり直しがきく敗者復活型の社会を築いていくことが必要である。

また、恵み多い環境を将来の世代に引き継いでいくために、私たち自身のライフスタイルを根本から見つめ直し、全国に、そして世界に先駆けた持続可能な発展を実現する社会づくりも、私たちが取り組まなければならない大きなチャレンジである。

“とちぎ”の担い手が、みずみずしい発想と姿勢を呼び覚まし、さらなる夢と希望に挑戦できる、革新性と創造性があふれ、飛躍する“とちぎ”を創り出していく。

